

単元名

生きもの 大すき 大はっ見

教科書 下巻 p.44～59 単元の配当時間 10 時間／活動時期 6 ～7 月

単元の目標

生き物を継続的に育てる活動を通して、生き物の特徴、育つ場所、変化や成長のようすに興味・関心をもって働きかけ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物に親しみをもって大切にすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
どこに どんな 生きものが いるかな（1時間） これまでの経験をもとに、見付けたことのある生き物の種類やそれらがすんでいる場所について交流し、生き物に興味・関心をもつことができるようにする。	態	生き物を見付けたり育てたりしたいという思いをもって、友達と交流しようとしている。	「〇〇公園でバッタを見付けたよ」「幼稚園のときに園庭でダンゴムシを捕まえたよ。今度はお世話してみたいな」など、生き物を見付けたり育てたりしてみたいという思いをもって、友達と進んで交流しようとしている。	●身近に生息する生き物の写真を提示したり、これまで関わったことのある生き物や好きな生き物を聞いたりして、生き物を見付けたり育てたりしたいという思いをもてるようにする。
	知	生き物がすんでいる場所の特徴や生き物のようすに気付いている。	「ダンゴムシは石や落ち葉の下にいたから、暗くて湿った場所が好きなんだね」「バッタは草を食べるから、草がたくさん生えている場所にいるんだな」など、生き物がすんでいる場所の特徴と生き物の関係に気付いている。	●生き物を見付けた場所について問いかけ、どのような環境をすみかにしてるのかを思い出せるようにする。 ●生き物の図鑑や本などを用意しておき、生き物によってすんでいる場所に違いがあることに気付くことができるようにする。
	思	これまでの経験をもとに、生き物がすんでいる場所を予想しながら生き物を探している。	これまでの経験や友達と相談したり調べたりしたことをもとに予想しながら生き物を探し、見付けた場所や見付けたときの生き物のようすについて、友達と話したり、記録カードにかいたりしている。	●生き物を見付けた場所やその特徴を想起したり、友達の発言を参考にしたりするように声をかけ、生き物がすんでいる場所について考えることができるようにする。
生きものを さがそう（3時間） 生き物に興味・関心をもって、生き物を探す計画を立てたり、生き物を探したりする活動を通して、生き物がすんでいる場所を予想したり、確かめたりして、生き物がすんでいる場所の特徴や生き物のようすに気付くことができるようにする。	態	生き物に興味・関心をもち、生き物を探す計画を立てたり、進んで生き物を探そうとしたりしている。	生き物を探しに行く見通しをもって、生き物を捕まえるために必要な道具や約束などを進んで発言したり、記録カードにかいたりするとともに、意欲的に生き物を探そうとしている。	●友達同士で交流する場を設定し、活動への意欲を高めたり、友達といっしょに計画を立てたり、探したりすることができるようにする。 ●生き物の図鑑や本などを学級文庫に入れておき、生き物への興味・関心を高めることができるようにする。

単元の評価規準

- 知識・技能
生き物を育てる活動を通して、それらは生命をもっていることや成長していることに気付いている。
- 思考・判断・表現
生き物を育てる活動を通して、それらの特徴、育つ場所、変化や成長のようすに興味・関心をもって働きかけている。
- 主体的に学習に取り組む態度
生き物を育てる活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
生きものを そだてよう （2時間） 生き物の特徴、変化や成長のようすに着目して、観察したり世話をしたりして、生き物に合った世話のしかたがあることに気付くとともに、よりよい成長を願って継続的に関わるができるようにする。	知	生き物の特徴、変化や成長のようす、生き物に合った世話のしかたに気付いている。	生き物には、その種類に合ったすみかや餌、世話のしかたがあることに気付いたり、それらが生き物の成長に合わせて変わっていくことに気付いたりしている。	●前回、観察したときと変わっているところに注目して観察するように声をかける。 ●世話のしかたに困っている子どもには、図鑑やインターネットで調べたり、詳しい人に聞いたりするように促す。
	思	生き物がすんでいる場所の特徴や、生き物の変化や成長のようすを捉えながら、すみかを作ったり世話のしかたを決めたりしている。	・生き物を見付けた場所やその特徴を想起しながら、すみかを作るのに必要な物を自分で考えて準備し、生き物に合ったすみかを工夫して作っている。 ・生き物の立場に立って関わり方を見直しながら、世話をしている。	●生き物を見付けたときの写真や動画を提示したり、図鑑やインターネットなどを使って調べるように声をかけたりする。 ●違う生き物の世話をしている友達の飼育ケースと自分の飼育ケースを比べたり、同じ生き物の世話をしている子ども同士でグループを作ってすみかの工夫を共有したりして、生き物に合ったすみかの特徴を捉えることができるように支援する。
	態	世話のしかたを工夫しながら、継続的に関わろうとしている。	授業時間だけでなく、休み時間にも定期的に生き物を観察し、餌やりや掃除などの必要な世話を進めたり、休日には家に持ち帰って、世話を続けたりしようとしている。	●生き物に名前を付けて親しみをもたせたり、友達といっしょに世話をしたりするように促す。
生きものの ひみつをさがそう（1時間） 生き物の特徴、変化や成長のようすに着目しながら、観察や世話をする活動を通して、生き物によって違いや共通点があることや、それらが生命をもっていることに気付くとともに、生き物に親しみをもって大切にすることができるようにする。	思	生き物の特徴、変化や成長のようすに着目して、気付いたことを表現している。	・生き物の世話を通して、気付いたことや発見したことを日常的に教師や友達に伝えている。 ・ほかの生き物と自分の生き物を比べて、生き物の特徴や育て方、変化や成長のようすなどの違いや共通点について友達と話し合ったり、記録カードにかいたりしている。	●観察の視点を与えながら教師がいっしょに活動して、思考を促すように支援する。 ●同じ生き物の世話をしている子ども同士でグループを作って発見を共有したり、違う生き物の世話をしている友達と交流したりするように促す。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
はっ見した ことを つたえ合おう（3時間） 生き物を育てる過程で発見したことを伝え合う活動を通して、生き物は生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、発見したことを伝えたいという思いをもって進んでふれ合い交流することができるようにする。	知	生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。	「お世話を始めたときは、あまりやごが好きではなかったけれど、毎日お世話をしていたら、だんだん好きになったよ。ちゃんとトンポになってうれしかったな」など、生き物と自分との関わりや心の変容に気付いたり、「最初は飼育ケースの掃除にすごく時間がかかっていたけれど、今では短い時間できれいにすることができるようになったよ」など、上手に世話ができるようになった自分の成長に気付いたりしている。	●記録カードや撮影した写真、動画を手がかりに、生き物の変化や成長に着目して、これまでの活動を振り返るよう に助言する。 ●生命の不思議さや尊さなどについて気付いている子どもの話を周りに広げ、生命の大切さについて考えることができるようにする。
	思	育ててきた生き物のことや心を寄せて世話をしてきたことなどを振り返り、表現している。	育ててきた生き物のことや心を寄せて世話をしてきたことを振り返り、「やごからトンポになったときはすごくうれしかったな。羽がきらきらしていてきれいだったよ。このときの感動をほかのクラスの友達にも伝えたいから、新聞に写真をはって、廊下にはりたいな」など、「だれに」「何を」「どうやって」伝えるかを意識しながら、自分なりに表現している。	●これまでの記録カードや撮影した写真、動画を見返して、自分の伝えたいことを決めることができるように支援する。 ●教科書下巻p.55やp.122～123を提示したり、これまで経験した伝え方を想起させたりして、表現方法を決めることができるように支援する。
	態	生き物の特徴、育て方、変化や成長のようすなどを伝えたいという思いをもち、進んでふれ合い交流しようとしている。	・友達の発見を興味・関心をもって進んで聞き、わかったことや気付いたこと、疑問に思ったことなどを交流しようとしている。 ・休み時間など、さまざまな機会を利用していろいろな人に生き物の特徴や育て方、変化や成長のようすなどを伝えようとしている。	●生き物の世話をする中で驚いた場面や発見した場面を意図的に取り上げ、気付きを自覚させることで、誰かに伝えたいという気持ちを高めることができるようにする。